

テーマ：貿易統計（2015年5月）
 ～実質輸出は前月比▲4.4%と大幅減少～

発表日：2015年6月17日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
 TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量		
		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU	アジア		アメリカ		EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
14	1月	▲27951	▲17765	9.4	25.1	▲0.2	6.3	5.5	▲2.0	8.0	15.3	9.3	10.9	
	2月	▲8061	▲10023	9.8	9.1	5.4	▲1.0	8.2	5.0	▲0.5	16.1	8.6	▲2.8	
	3月	▲14501	▲18833	1.8	18.2	▲2.5	1.5	▲0.3	▲4.9	11.6	13.3	12.8	11.3	
	4月	▲8255	▲9414	5.0	3.6	2.0	▲1.5	4.8	▲1.3	▲1.3	6.2	0.7	1.0	
	5月	▲9172	▲9064	▲2.8	▲3.5	▲3.4	▲1.9	6.4	▲5.0	▲4.0	1.0	▲0.7	▲2.3	
	6月	▲8341	▲11052	▲2.0	8.6	▲1.6	▲1.8	4.5	▲5.4	7.2	6.5	7.9	8.2	
	7月	▲9665	▲10141	3.9	2.4	1.0	▲1.0	3.7	0.7	▲0.4	▲0.6	▲2.8	▲2.7	
	8月	▲9532	▲9175	▲1.3	▲1.4	▲3.0	▲6.2	1.0	▲3.5	▲4.6	▲2.4	▲3.3	▲5.0	
	9月	▲9620	▲10406	6.9	6.2	2.8	▲1.1	▲4.9	4.8	3.0	0.0	4.0	3.1	
	10月	▲7418	▲8236	9.6	3.1	4.8	▲0.4	3.2	4.4	▲1.8	7.9	3.7	▲3.7	
	11月	▲8988	▲7886	4.9	▲1.6	▲1.7	▲3.7	▲4.4	▲1.3	▲6.9	▲9.8	▲0.6	▲6.4	
	12月	▲6656	▲6033	12.8	1.9	3.9	8.4	3.6	0.3	▲1.8	8.8	▲6.6	▲4.1	
15	1月	▲11738	▲2940	17.0	▲9.1	11.1	2.9	6.4	15.4	▲6.3	▲14.7	▲7.8	▲9.9	
	2月	▲4285	▲5622	2.5	▲3.6	▲2.1	1.9	3.3	▲3.4	4.5	▲10.0	▲5.5	11.3	
	3月	2227	▲76	8.5	▲14.4	3.2	5.8	13.7	3.3	▲10.3	10.5	▲9.4	▲15.9	
	4月	▲558	▲2399	8.0	▲4.2	1.8	7.1	5.2	0.1	0.1	4.6	▲3.7	▲4.4	
	5月	▲2160	▲1825	2.4	▲8.7	▲3.8	▲6.7	1.4	▲2.3	▲5.3	1.6	▲7.4	▲8.8	

(出所)財務省「貿易統計」

○輸出入ともに減速

5月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は2,160億円の赤字（コンセンサス：▲2,454億円、レンジ：▲5,616～▲580億円）となった。

輸出金額は、前年比+2.4%（コンセンサス：+2.8%、レンジ：+0.1%～+9.1%）となった。9ヶ月連続の増加だが、輸出数量が3ヶ月ぶりに減少したため、増加幅は縮小した。輸入金額は低水準の原油価格や数量の減少により同▲8.7%と減少した。季節調整値では、輸出金額が前月比▲2.7%、輸入金額は同▲3.5%とともに減少し、季節調整値でみた貿易収支は1,825億円の赤字と前月から赤字幅は小幅縮小した。

○実質輸出は期待外れの結果に

為替などの物価変動の影響を除いた実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比▲4.4%（4月：同+0.2%）と大幅減少となった。4-5月平均と1-3月期平均を比較しても▲3.7%の減少であり、4-6月期の実質輸出は前期比マイナスとなる可能性が高い。

5月の大幅減少の主因は、米国向けが前月比▲8.7%と失速したことだ。輸送用機器の減少による下押しが大きい。一般機械、電気機器、化学製品などほぼ全ての項目で減少しており内容も悪い。また、4月確報によれば、4月の米国向け輸出は再輸出品の急増により押し上げられており、実態としては4月から低調な推移となっていた。これまで実質輸出の牽引役だった米国向けだが、4-6月期は実質輸出の重石となりそう。アジア向けは同▲1.9%と小幅増加した。中国向け、NIEs向け、ASEAN向けそれぞれが減少した。ASEAN向けは4ヶ月連続の減少となり、水準も14年前半程度まで切り下がるなど弱さが目立つ。中国向け、NIEs向けも伸び悩みが見られ、アジア経済の減速が輸出の伸び悩みに繋がっているとみられる。

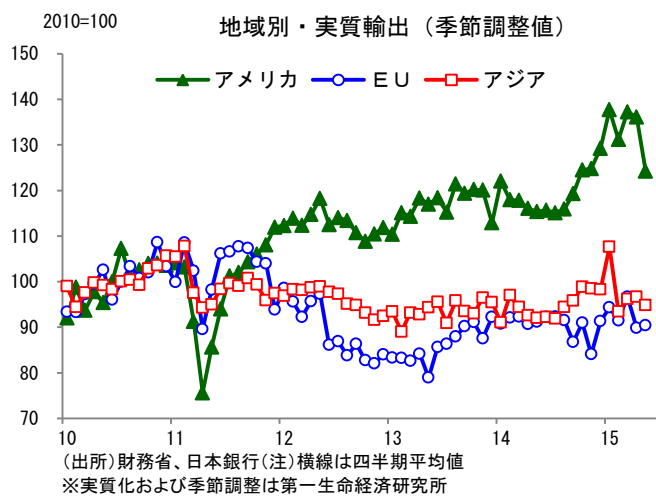
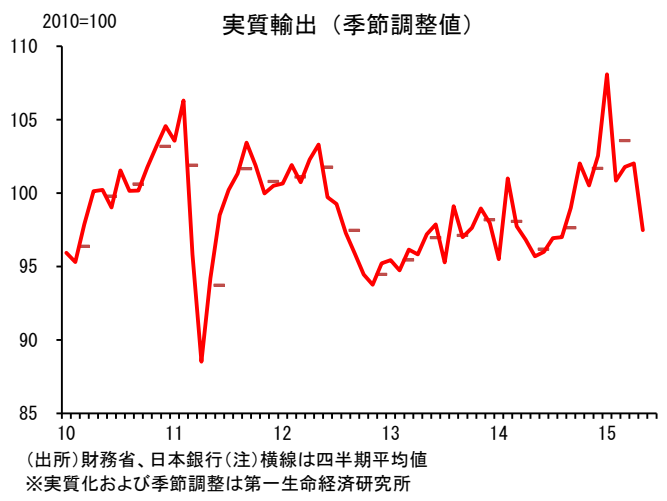
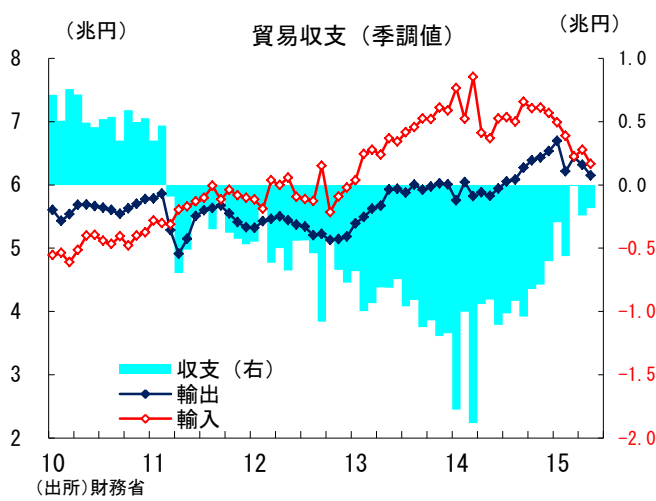
一方、EU向けは同+0.7%と小幅増加。一般機械が増加、電気機器、輸送用機械が減少とまちまちの結果となった。前月の大幅減小の後には物足りなさはあるが、均してみれば回復に向かいつつある。

○4-6月期実質輸出は一旦減速する見込み

以上のように、4-6月期の実質輸出は減少する可能性が高い。年後半からは米国を中心とした海外経済の持ち直しを背景に増加傾向で推移するとみているが、そのペースは緩やかなものになるだろう。

海外経済を展望すると、米国経済は1-3月期に悪天候や港湾ストなどの一時的な下押しを背景に失速したものの、足元では好調な指標も見られはじめ安定成長に戻りつつある。欧州経済は、ユーロ安や金融緩和、原油安の効果が浸透することで緩やかな回復基調を辿ろう。アジア経済については、米国景気の回復や原油安効果などを背景に緩やかに改善していくとみている。中国経済は昨年11月以降立て続けに行った金融緩和の効果が顕在化してくることで、足取りは鈍いものに留まるとみられるものの徐々に上向いてくるだろう。総じて見れば、海外経済の緩やかな回復が、実質輸出を後押しするだろう。

なお、5月の経常収支（季節調整値）は、引き続き1兆円を越える黒字になると予想している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。